

地域資源のステークホルダーに関するシステム解析

農林生産学科 准教授

赤沢 克洋

目 的

中山間地域に存在するさまざまな資源は、その有効活用のために適切なマネジメントが必要とされる。本研究では、(1)近代化産業資源、(2)道の駅、(3)美術館、(4)ジオパークを地域資源として取り上げ、それぞれについて、ステークホルダーの行動・意識等に関するシステム解析を行い、地域資源マネジメントに寄与する基礎情報を提示することを目的とする。

研究成果

(1)近代化産業資源：地域観光資源としての工場見学の類型と集客力のメカニズム

工場見学は地域観光資源としての側面を持っている。つまり、地域にとって工場見学の集客力が興味の1つとなろう。そこで、企業・工場の経営資源的特徴や工場見学実施目的等の内部条件が集客力を発生させるメカニズムを定量的に把握することを目的とした。そのために、全国の工場見学実施主体に対するアンケート調査を実施し、SEMにより集客力の線形的発生メカニズムを同定した上で、集客力を目的変数、工場見学実施目的を説明変数としたCHAIDにより工場見学の類型を抽出し、さらに内部条件に関する類型間の差の検定を行った。その結果、目的最希薄型、目的希薄型、製品企業訴求集中型、一般目的全般重視型、直売促進集中型及び直売促進多様型の6つの類型が得られ、類型ごとに集客力と内部条件との関係が特定できた。この結果から、集客力を発生させるメカニズムとして、①密な消費者接点と強い経営体力に基づいて製品・企業PRや社会貢献を目的として設定し、そのために工場見学を充実させて集客力に繋げるもの、②密な消費者接点、零細性、地域密着性に基づいて製品直売の伸張を目的として設定し、それを手段としながら工場見学を併存して集客力に繋げるもののが明らかとなった。

(2)道の駅：差別化戦略による道の駅の類型に関する定量分析

道の駅は交流人口の拡大と商業活動の場の提供とを通じた地域産業活性化の拠点の1つとして捉えられている。道の駅間の競争が年々激化しており、差別化戦略による集客の確保・拡大が道の駅共通の課題となっている。しかし、差別化戦略の採用方針及び集客力は一様ではない。そこで道の駅の差別化への取り組みを定量的に把握・検討することを目的とした。このために、全国の道の駅の管理主体に対するアンケート調査を実施し、他の道の駅と比べて優位性のある訴求点の組み合わせにより差別化戦略を指標化した上で、潜在クラス分析を用いて道の駅が採用する差別化戦略の類型を抽出した。その結果、全般希薄型、地域販売魅力型、地域販売食事型、施設充実型及び全般訴求型の5類型が得られた。さらに、分散分析を行ったところ、自己評価指標(3/3)、地域貢献指標(6/6)、運営上の問題点(3/7)において類型間の差が検出され、差別化戦略の深化が競争力や地域貢献に結びついている状況が観察できた。

(3)美術館：運営方針による美術館の類型に関する統計解析

住民福祉や観光振興面での有効性を持つと同時に財政面での負の資源となる可能性をはらむ美術館に対して、地域の期待と不安は大きく、美術館の質的ポテンシャルを向上させることは重要な課題といえる。そこで、我が国における美術館の質的実態を定量的に把握することを目的とした。このために、運営施策の組み合わせである運営方針が質的実態を顕示していると想定して、全国の美術館を回答主体としたアンケート調査を実施し、探索的因子分析により運営施策の計測指標を抽出した。さらに、この計測指標を分割指標としたクラスタ分析により美術館を類型化し、分散分析により各類型の特徴を整理し

た。その結果、我が国の美術館においては、活動消極型、観光振興特化型、社会貢献特化型、基本強化振興型、基本強化顧客型及び施策多様型の6つの運営方針が採用されていることが明らかとなった。

(4) ジオパーク：山陰海岸ジオパークの活動システムに関する構造分析

山陰海岸ジオパークは官民参加による組織運営がなされ、その具体的活動は多岐にわたる。活動間には関連性と波及性が存在し、そのため活動全体がシステムとなっている。したがって、山陰海岸ジオパーク活動の効率的なマネジメントのためには、活動システムのメカニズムを解明する必要がある。そこで、システム内で活発に働く活動を特定すること、システムの骨格を同定することの2点を目的とした。このために、組織運営に加わる41団体を回答主体としたアンケート調査を実施し、グラフ理論に基づいたDEMATELを用いて、システムの簡易な構造解析を行った。その結果、他の活動との影響・被影響の関係を中心的に持つ活動として、魅力創出、観光振興、人づくりが特定できた。また、提案手法により、観光振興に関する部分システムと意識醸成に関する部分システムとが魅力創出を核として結合したシステムが骨格構造となっていることを明らかにできた。さらに、活動システムの構成要素に無駄が少ないこと、骨格構造が効率的な構造であることから、山陰海岸ジオパークの活動システムがミニマムエッセンシャルズの点から妥当な構造であることがわかった。

社会への貢献

(1)～(3)の取り組みは、戦略の組み合わせ類型を抽出しているため、各地域資源のステークホルダーの行動に関する成功あるいは失敗戦略を離散的パッケージとして提示できる。いずれも全国規模の調査であり、また規定要因を明らかにしているため、いずれの主体に対しても戦略的含意のフィードバックが可能である。(4)の取り組みでは、先進事例におけるジオパーク活動の構造を解析しており、その知見は世界ジオパークへの認定あるいは再認定を目指す主体にとって有用であると考えられる。

次年度に向けた検討状況

今年度得られた差別化戦略・運営方針・活動状況等の成功戦略に関してカウンターステークホルダー(利用者・地域住民)による評価を分析する。現在、山陰海岸ジオパークに対して計画中である。

公表論文

1. 赤沢克洋・岩ヶ谷彩人：地域観光資源としての工場見学の類型と集客力のメカニズム、地域資源活用による農村振興-条件不利地域を中心に、農林統計出版，pp. 511-532 (2014)。
2. 赤沢克洋・古安理英子・林大輝：「差別化戦略による道の駅の類型に関する定量分析」，地域地理研究(投稿中)。

学会発表等

1. 赤沢克洋・古安理英子：山陰海岸ジオパークの活動システムに関する構造分析，生物資源科学部ミッション研究課題成果報告 サテライトキャンパス in 飯南ポスター発表(予定)

受賞等

外部資金

地域マーケティングに関する科研(基盤研究(C))を受けている。